



報道関係者 各位

山口県におけるオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示す

新型インフルエンザウイルスについて

山口県から、タミフル耐性を示すH275Yの遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが分離され、薬剤感受性試験により薬剤耐性が確認されたとの報告がありましたので、その概要について、別紙のとおり、情報提供します。

記者配布資料

平成22年(2010年)2月24日

部 課 名	課長名	班長名	担当職・氏名	連絡先・県庁内線
健康福祉部 健康増進課	岡 紳爾	母子保健・感染症課 磯村 昭二	主査 林 雅裕	083-933-2956 内線2956
健康福祉部 環境保健センター	所長 調 恒明	保健科学部長 兼行 義明	保健科学部副部長 藤永 良博	083-922-7630 内線5173
発表内容の 関係地域	全県、岩国、柳井、周南、山口、防府、宇部、山陽小野田、下関、長門、 萩、首都圏			

抗インフルエンザウイルス薬「タミフル」に耐性を示す 遺伝子変異が検出された新型インフルエンザウイルス (A/H1N1)の確認について

本県で確認された患者から、「タミフル」耐性を示す遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが確認され、国に報告しましたので、お知らせします。

なお、厚生労働省によれば、タミフルに対する耐性を持つ遺伝子変異は、ウイルスの重篤度(病原性)には直接影響を及ぼすものではないとされています。

ウイルス検出の概要

- 全国的にウイルスの解析を行うため、国立感染症研究所からの依頼で、1月4日に山口県環境保健センターから同研究所に送付した4検体(山口県で確認された患者から採取した検体のうち同研究所が無作為に抽出したもの)のうち、1検体から、タミフル耐性を示す遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが検出された旨、2月24日に同研究所から連絡があった。

なお、この患者は治療過程でタミフルを使用して耐性が生じたと考えられ、かつ周囲への感染拡大は認められていない。

- 国立感染症研究所によって実施された検査結果は、以下のとおりである。

遺伝子解析

ノイラミニダーゼ(NA)遺伝子に、H275Yの突然変異を確認した。
季節性インフルエンザ(A/H1N1:ソ連型)との交雑は認めない。

薬剤感受性試験

- ・オセルタミビル(商品名:タミフル):薬剤耐性あり(感受性低下を認める)
- ・ザナミビル(商品名:リレンザ):薬剤感受性あり

※薬剤耐性:薬剤に対して抵抗力をもち、薬剤が効きにくくなること
薬剤感受性:薬剤が有効に作用すること

- タミフル耐性を示す遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが確認されたのは、全国で5.5例目、本県では2例目である。